

議会総括質問



6/24(金)
望月 厚司

質問：都市ビジョン実現のためにリーダーシップをどう発揮するか

市長：私の市政運営基本方針は「現地・現場主義」「スピード感重視」「積極的な情報発信」の3項目です。出来る限り現地現場に出向き、市民の皆様の考えに耳を傾ける。早急に対応すべき政策の推進には、目標と期限を明確にし緊張感を持つ。また自らがトップセールスを行い、国内・世界へ向けて「静岡」の情報発信に努める。この3項目を柱に都市ビジョンの実現を目指し、市政の運営にリーダーシップを発揮したい。

質問：縦割り行政の弊害やトップダウンについて

市長：縦割り行政の弊害を招くことのないよう組織の横の連携は重要である。スピード感のある意思決定を目指したプロジェクトチームを活用したり、特定の課題について局長会議を設置するなど、役所全体の情報共有や総合的な意思決定を図りたい。トップダウンについては、施策を強力でスピード感を持って推し進める方法として有効であり、大きな進むべき方向性を示しその目標に向けて取り組んでいくための方法として効果的だと考えている。

質問：静岡市版事業仕分けの位置づけと次年度予算への反映について

経営管理局長：市民目線を取り入れた事務事業の外部評価として実施する。事業統廃合や民間移行、コスト削減を施すことによって経費節減につながることも、また仕事の成果や市民への説明責任に対する職員の意識向上が図られる。評価によって見直しとなった事務事業については、行財政改革審議会へ報告し、進行管理を行い事後検証しながら予算へ反映させるなど、次年度以降の方向性を検討するとともに、市民にわかりやすい形で公表していく。

6/28(火)
後藤 哲朗



- 1 静岡市の防災対策について
- (1) 津波対策について
 - (2) 土砂災害対策について
 - (3) 災害発生後の対応について
 - (4) 大震災への備え

6/27(月)
池邨 善満



- 1 茶どころ日本一実現にむけて
- (1) 暫定規制値を超えたことによる影響について
 - (2) 危機の洗い出しについて
 - (3) 日本一実現に向けた施策について
- 2 夏の省エネ対策について
- (1) 静岡市省エネ対策実施計画について

6/28(火)
遠藤 広樹



- 1 夏期の電力需給対策に伴う企業の就業時間等の変更に対応した市の取り組みについて
- (1) 休日保育、延長保育について
 - (2) 病児・病後児保育について
 - (3) 放課後児童クラブについて

新政会 しんせいかい だより

平成23年7月15日発行

第8号

発行/静岡市議会 新政会
編集/新政会 広報部
〒420-8602
静岡市葵区追手町5番1号
TEL 054-254-2111
(内4515)
FAX 054-653-3412

平成23年度
新政会
新体制スタート!

6月定例議会 一般補正予算 4億1,909万円の追加

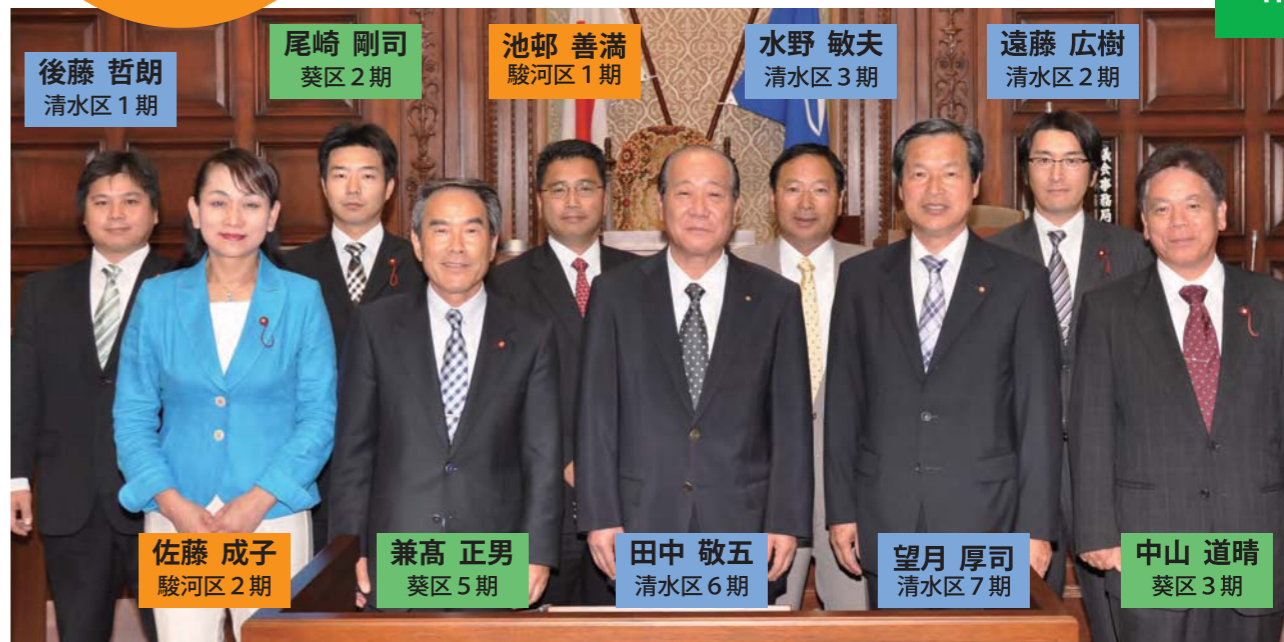
田辺市長が就任して、初めての6月定例議会が開催されました。この定例議会では、市長の所信表明が行われ、補正予算では、東日本大震災に対応した「防災対策」、「被災者支援」、浜岡原発の全面停止に伴う「省エネ対策・新エネルギー導入促進」のほか、「雇用・経済対策」、「高齢者福祉・子育て支援」等を可決しました。

議会改革においては「議会改革特別委員会」の設置をし、今後、議会基本条例の制定、議員定数条例の改定検討など、進めていきます。新政会参画メンバーは次のとおりです。

■ 議会改革特別委員会 ■ 副委員長/望月 厚司 委員/尾崎 剛司・遠藤 広樹

■ 執行部 ■ 会長 望月 厚司 総務会長 佐藤 成子 政調会長 遠藤 広樹

23年度
体制



■ 常任委員会 ■

議会運営委員	遠藤 広樹	望月 厚司
総務委員	佐藤 成子	中山 道晴
生活文化環境委員	後藤 広樹	望月 厚司
厚生委員	田中 敬五	
経済消防防災委員	池邨 善満	兼高 正男
都市建設委員	尾崎 剛司	
上下水道教育委員	水野 敏夫	遠藤 広樹

■ 特別委員会 ■

総合治水及び海岸保全対策	池邨 善満	望月 厚司
中山間地活性化及び有土山整備促進	遠藤 広樹	兼高 正男
新都市拠点整備及び公共交通対策調査	佐藤 成子	尾崎 剛司
	田中 敬五	
大規模社会資本利活用調査	後藤 哲朗	水野 敏夫

■ 監査・農業委員会 ■

監査委員	尾崎 剛司
農業委員	中山 道晴

■ 付属機関委員 ■

静岡市清掃公社理事	遠藤 広樹
競輪運営協議会委員	後藤 哲朗
清掃対策審議会委員	池邨 善満
都市計画審議会委員	兼高 正男
青少年問題協議会委員	佐藤 成子
国民健康保険運営協議会委員	望月 厚司

■ 組合議会 ■

蒲原総合病院組合議会	水野 敏夫
------------	-------

宮城県仙台市視察

東日本大震災から4ヶ月がたち、今回、新政会は甚大な津波被害を受けた東松島市と行政に頼らず自力で避難所運営を行った仙台市の高砂市民センターに調査を行った。

東松島市長の阿部秀保氏は、死者が1,000名を超し、市全世帯の約6割が被災という、深刻な状況下で市長が先頭に立ち仮設住宅や災害ゴミに対する対応など素早い行政対応を行っていた。



仙台市の高砂市民センターでは、避難所として指定がされていないとのことで、支援物資を断られ、館長は「行政には頼らない」と決断し、自力で必要な物資をこれまで関係があった地域企業から提供してもらい、一時は1,000名を超える避難者の命を守り続けた。今回、東松島市長、そして高砂市民センターの館長の話の中で危機に直面した際、リーダーの決断力そして実行力の重要性を改めて感じさせられた。

福島県新地町視察



宮城県との県境に位置する福島県新地町は、地震と津波で大きなダメージを受けた。10m以上(12m近い)大きな津波が押し寄せた同町では住宅街では原型をとどめている建物はほとんどない状態であった。

復旧復興については「災害ボランティア」の協力は不可欠である。
 * 福祉関係団体、自治会、民生委員・児童委員、社会福祉施設等との協力体制
 * 高齢者、障害者、幼児などの要支援者支援の体制整備
 * ボランティア・コーディネートできる人材育成
 * 県内及び全国的なネットワーク構築の準備を早急に進める必要があると考えている。



視察先 ◆ 台湾【行政院農業委員会茶業改良場】 月日 ◆ 5月23日
 視察メンバー ◆ 田中敬五・兼高正男・中山道晴・水野敏夫・池邨善満・後藤哲朗

茶どころ日本一実現に向けた取り組みを着実に推進すべきとの観点で、新政会は、海外のお茶事情「台湾」を調査した。

台湾では、戦後、茶業の復興を国の重要事項の一つに挙げ、生産量を増加させている。併せて、品種改良がおこなわれ、高山の多い台湾において、標高1000m以上の産地で作られる台湾茶は、まさに国を象徴するお茶になったとのこと。

現在の台湾では、生活水準の向上や健康志向などにより、茶葉への関心が高まってきている。高級茶を楽しむ習慣が広まっており、よりおいしく、より高級な茶葉が求められているため、茶葉のレベルを上げるための産地や製法の研究が進められている。静岡市が進める「静岡の茶どころ日本一計画」の、10年後の目標は「お茶のまち静岡市」を誇りに思う市民の割合100%です。目標実現に向けては、さらなる品種改良が必要である。

あつたか くらし。 静岡市の

実現をめざして

Shizuoka

3月11日の衝撃 何が起きたのか、これからどうなるのか

地震津波研修会

■ 日時 平成23年5月16日(月)
 ■ 講師・東海大学海洋研究所教授 地震予知センター長 理学博士 長尾年恭氏

3月11日に発生した東日本大震災は、日本に未曾有の危機をもたらした。この地震は本当に予想されていなかったのか、さらに今度どのような事が地学的に発生するのか。また、将来発生する東海地震に加え、東南海、南海地震との連動も含め、地震・津波対策について研修会を開催した。

この地震では地震動による死者(津波以外の死者)はほとんど出ていないと推定される。日本家は地震動に対して極めて強い。しかし、今回の地震で初めて首都圏での帰宅困難者問題や地盤液状化、さらに長周期地震動による被害(市原市のコンビナート火災)も発生している。

地震は予知でき、究極的には制御できるとも考えられている。静岡県には100か所ほどの地震計が入っているが、さらに予知を正確にするには、既設の地震計の近くにさらにもう一つ地震計を設置することが重要である。予想されている東海地震は単独での発生は考えられないとの話であるだけに、東南海、南海地震も想定し辞し・津波対策を計画し、着実に実行していかなくてはならない。市議会の特別委員会にも新たに、地震・津波対策に関する調査が加えられた。市民の安心、安全のため、議員一丸となって取り組んでいくことが重要である。



津波対策に関する緊急対応への申し入れ

3月18日 記

被災地に対し、世界各国から支援の手が差し伸べられ、静岡市においても災害発生直後に支援部隊を編成し、人命救助や支援物資の搬送等を行ってきたが、被災地の早期復興に向け、更なる支援の拡大を市長のリーダーシップのもと、全市を挙げて実行していく必要がある。「新政会」は、被災地の早期復興支援という使命と、静岡市の津波対策強化という体制の再構築を早急に進める必要があると考え、以下の項目についての対応を申し入れた。

1. きめ細やかな被災地支援強化の早期実施
2. 被災者等受け入れの態勢整備と早期受け入れの実施
3. 適切な情報収集と発言
4. 津波避難経路及び場所に関する体制整備
5. 公共施設等の緊急避難階段や屋上フェンス等の整備
6. 津波の被害想定図の修正と再構築
7. 定期的津波対策訓練と連携強化
8. 災害用備蓄を津波から守るための有り方再検討

田辺市長との政策情報交換会開催



月 日 平成23年 5月16日
 場 所 ホテルサンルート清水
 出席者 田辺市長
 望月厚司・田中敬五・兼高正男・中山道晴・水野敏夫・遠藤宏樹・佐藤成子・尾崎剛・池邨善満・後藤哲朗

市長選挙に於いて田辺候補と政策協定を結び、その中で、定期的な「政策情報交換会議」の設置を締結している。その第1回として開催。「市長マニフェスト・現状打破と会派政策協定の確認」を行った。今回は、「静岡市の防災対策」「行財政改革」「災害発生時・復興にむけた自治体間の協力協定」について、意見交換を行った。次回は、7月を予定している。

社会保険桜ヶ丘病院に関する陳情

月 日 2011年 6月6日(月)
 議員名 望月厚司・遠藤宏樹・佐藤成子
 訪問先 永田町・参議院会館
 津田弥太郎参議院議員(厚生労働委員会委員長)

目的 静岡市清水区にある社会保険桜ヶ丘病院の現在の状況について、情報交換することを目的に、厚生労働委員長を訪れる。



内容 静岡市の「国に対する提案・要望」に昨年も要望項目に記載された、清水区の「社会保険桜ヶ丘病院の公的病院としての存続及び移転新築について」の現状把握と課題などの最新情報とその方向性について、情報を得ることができた。会派として社会保険桜ヶ丘病院移転新築実現に向け、引き続き努力していく。

台湾のお茶事情

